

### 実習・実技、企業連携等の取り組み

授業科目名	臨床実習Ⅱ	授業時数又は単位数	320時間
実施期間	6月から8月にかけて、8週間、週5日、1日8時間実施する。 実習前教育4月から5月にかけて、一日2コマ、週2回学内にて実施する。		
実習・演習等の目的及び概要	<p>以下の項目を目的に実習指導担当言語聴覚士（以下、実習指導者）の下、病院にて実習を行う。</p> <p>①学校で学んだ基礎医学、臨床医学及び専門分野における理論、評価方法、検査・指導技術を臨床の場で実際に行う。</p> <p>②言語聴覚士として必要な臨床的問題解決能力を身につける。</p> <p>③チームアプローチのあり方を知り、臨床場面での交流を通じて人間性豊かな言語聴覚士を目指す。</p>		
企業等との連携の基本方針	実習指導資格を持つ言語聴覚士がおり、学校の提示する臨床実習の目的や実施に関して承諾が得られた病院を選定している。		
企業等との連携内容	<p>実習実施前に、実習担当教員と実習受け入れ病院の実習指導者が目的および学生の状況について打ち合わせを行い、内容を確認する。</p> <p>実習中には必ず病院を訪問し、実習の進捗度、学生状況を確認し、必要に応じて内容の調整を行う。</p> <p>実習終了後、病院での指導担当言語聴覚士が作成した評価表をもとに、実習担当教員が実習前後の試験結果と合わせて成績評価および単位認定をする。</p>		
学修成果の評価方法	実習評価は規律・意欲・態度・知識・技術の5つの領域、18の評価項目を設定し、それぞれについて5段階評価を行う。それをもとにA、B、C、Dの4段階で総合評価を行い、C以上を合格とする。		

### 実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
実習前教育 30日前	実習先(病院・施設)に必要な技術・知識を再度復習する。	学内
1日目	オリエンテーション	実習先
1週目	実習病院の機能や役割を学ぶ。対象とする患者様に対して、言語聴覚士がどのような業務を行っているか観察を中心に学び、担当症例を決定する。	"
2週目から3週目	実習指導者の指導の下、担当症例の情報収集および言語検査や高次脳機能検査、発声発語機能検査、嚥下機能検査等を行う。	"
3週目から4週目	実習指導者の指導の下、情報収集・各種検査から患者様の評価および問題点の抽出を行い、評価報告および訓練計画を完成させる。	"
4週目から6週目	実習指導者の指導の下、患者様に言語訓練や構音訓練、嚥下訓練等を行う。	"
6週目から7週目	訓練効果を確認するために再評価を行い、症例報告書を作成する。	"
7週目から8週目	症例報告書を完成させ、院内発表を行い実習の総括をする。	"
連携する企業等	第2北総病院、山之内病院、塩田病院、那珂川病院、東筑病院、横浜病院 会田記念リハビリテーション病院、海老名総合病院、佐倉厚生園病院 等 計34施設	